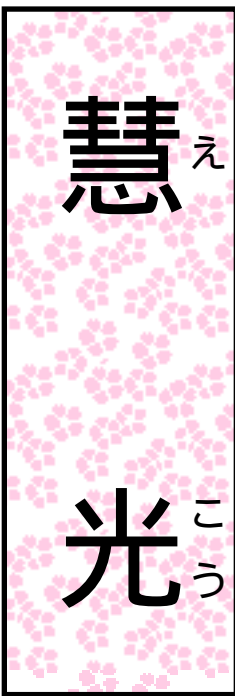




今年は花のつきが多かったテッセン



金光寺寺報  
第180号  
発行所 金光寺  
宮崎県西臼杵郡  
五ヶ瀬町大字鞍岡  
5927番地  
0982  
83-2338

今月のことば

ただよくつねに <sup>な</sup>み名をと <sup>な</sup>え ぶかきめぐみに こえたかし

今月のことばは、親鸞聖人の「正信偈」の「唯能常照如来号 応報大悲弘誓恩」〔ただよくつねに如来の号を称して、大悲弘誓の恩を報ずべしといへり〕が意識されたものです。

恩は「なされたところを知る」という意味です。知らないままに強制されて成り立つようなものは恩ではないのです。

「自分は他人の世話になったことはない」とあくまで言い張る人があっても、自分一人でこの世に生まれ出たはずはありませんので、この世の始まりは母親から生まれるという「なされた」ことから言えないでしょうか。

聖人は『教行信証』「行巻」に、称えるという「称」の文字を説明して、「秤」の意味があることを示しておられます。天秤ばかりは右と左がつり合うことで重さをはかります。ですから、「称」は二つのものがつり合っている状態、

という意味があります。

いま、お念仏を称えることが、阿弥陀さまが衆生を救うおいわれにかなっている、つりあっている、とおっしゃるのです。阿弥陀さまの清浄真実の仏のお心と、あるものを見ようともしない煩惱具足のわたしの心は、雪と炭ほどの違いです。つり合うことなど何もありません。ですが、そのわたしにおいて、唯一つり合うものが「南無阿弥陀仏」のお念仏として恵まれているのです。

阿弥陀さまは、わたしに「南無阿弥陀仏」を与えるから称えておくれ、と願ひ通しです。だから、その願ひのとおり「南無阿弥陀仏」とお念仏申すことが、唯一阿弥陀さまのこころにかなうのです。

(本願寺出版社刊「大乘」誌より転載)

仏事お休みのお知らせ

下記の日は緊急を除き、仏事は行いません。ご協力をお願いします。

6月 15日(水) 終日  
7月 26日(火) 終日  
10月 15日(土) 午後  
16日(日) 終日



ホームページ開いています。  
URL <http://konkhoji.jp/>  
6月8日現在 アクセス数 77,527人

明年三月の誕生日で満六十歳になります。という事で、六月一日から二日にかけて鞍岡中学校昭和四十七年三月卒業の同級生と一泊二日で還暦記念の旅に行つてきました。私以外は神社で厄払いを受けてからの行事。私は当山の同級生物故者追悼法要から参加。以後は高千穂屋旅館で旅行に行かない人も含めての懇親会そして旅行というスケジュール。とても楽しい二日間でした。毎日の楽しみはNHK朝の連続テレビドラマを見ることです。最近、出演している片桐はいりさんの次のセリフに心打たれました。「ささやかな心がけを大事にして小さな幸福を見いだす」。いかがですか。ささやかな心がけなどない日常ですが、このセリフを聞いてからつとめて一日に一回何かしらの掃除をするということをしるようになりました。本堂、門徒会館、庫裡に境内地と掃除する所はたくさんありますので、掃除する所がない、と困ることはありません。でも、一向にきれいにならない境内地です。(住職 松井卓郎)

住職ひとりごと

仏教用語豆辞典

知識

現代は情報化時代と呼ばれています。マスコミによって、多くの知識が洪水のように押し寄せてくる時代です。知識時代、知識人、知識階級、知識をつめこむなど、知識は考える働き、理解している内容と

いう意味の日常語となつています。この「知識」が仏教語なので。しかし、意味が違います。仏教では、友だちとか、知り合いとか、親しい人のことを「知識」といいます。さらに、善知識(ぜんちしき)を略してこう呼んでいます。善知識とは、仏縁を結ばせてくれる人、教え導いてくれる指導者を指します。「歎異抄」の序文にある「有縁の知識」や、「恩徳讃」の「師主知識の恩徳も」の知識が、これに当たります。

早く死んだ子が親に信仰生活を教えたという意味で「先立つ子は善知識なり」といつたりします。受験戦争に勝つためには、多くの知識が必要ですが、よき友、優れた仲間、善き指導者という意味の知識も、人生には必要です。知識不足は寂しいですから。(本願寺出版社発行 辻本敬順著 「仏教用語豆辞典」一〇〇 PART-1 から)



# 伝灯奉告法要

昨年一月九日から十六日まで一週間おつとまりになった本山御正忌報恩講のご満座の日(一月十六日)に、法要終了後、即ちご門主は参詣者の前で「伝灯奉告法要について」の消息(左コラム枠に掲載)を披露なさいました。

御消息にもあるとおり、本年十月一日から明年(平成二

十九年)五月三十一日までを十期に分けて伝灯奉告法要がご修行になります。

高千穂組は第六期、平成二十九年四月三日から五日の二泊三日で団体参拝を行い法要に参加します。

ついては団体参拝者を募集します。参加ご希望の方は金光寺までご連絡ください。

## 旅 程

4月3日(月)  
 金光寺発=====熊本空港-----大阪伊丹空港着=====  
 5:00発 6:00着 7:40発 8:45着 9:10発  
 ==東急ホテル-----西本願寺(書院・飛雲閣見学  
 10:30着 11:00着  
 昼食・法要参拝・帰敬式など)-----ホテル(泊)  
 17:50着

4月4日(火)  
 ホテル発=====大原の里・大原三千院=====  
 9:00発 10:00着 12:30発  
 都をどり見学=====有馬温泉(兵庫太陽閣)  
 13:20着 15:20発 17:00着

4月5日(水)  
 有馬温泉=====神戸別院=====姫路城  
 9:00発 9:30着 10:40発 11:40着  
 姫路城=====姫路駅=====熊本駅=====金光寺  
 15:00発 15:20着 18:47着 20:40着  
 15:50発 19:00発

**参加費**  
 一人当たり 116,000円  
**募集締め切り 9月10日**

## 伝灯奉告法要についての消息

去る平成26年6月6日、前門主の跡を承土浄土真宗本願寺派門主として務めてまいりました。ここに法統継承を仏祖の御前に報告いたし、ま隆盛と宗門の充実発展とを期して、平成28年および29年に、伝灯奉告法要をお勤めすることになりました。

阿弥陀如来のご本願は、あらゆる存在を分け隔てなくそのまま救おうとはたきかけていただきます。迷いと苦悩をかかえる私たちは、阿弥陀如来のお慈悲ひとすじに身を任せ、真実のさとりの世界であるお浄土に生まれていくべき身にならせていただき、お示しください。宗祖親鸞聖人が「そらごとたわごと」とお示しくださった私たち自身を含む迷いの世界は、何一つとしてたよりになるものはありませんが、ご本願のはたらきの中に生きる私たちは、確かな依りどころを持つことができます。

科学技術の発達による便利で豊かな生活の追及や欲望の肥大化はとどまることを知りませんが、人々は、そのような豊かさのみを追求することの虚しさや気づきはじめていたのではないのでしょうか。しかも、核家族化・人口の流動化などによって社会構造は大きく変化し、人間関係は希薄となり新たな悩みや不安を生み出しています。さらに世界に眼を移せば、武力紛争、経済格差、気候変動、核物質の拡散など、人類の生存に関わる課題が露呈しています。これらの傾向は今後一層強くなっていくことと思います。

私たちは、凡愚のまま摂め取って捨てないとはたらき続けてくださる阿弥陀如来のお慈悲を聞信させていただき、その有り難さ尊さを一人でも多くの方に伝えることが大切です。それとともに仏智に教え導かれて生きる念仏者として、山積する現代社会の多くの課題に積極的に取り組んでいく必要があります。まさにこのような営みの先にこそ、「自他共に心豊かに生きることのできる社会の実現に貢献する」道が拓かれていくのであります。

このたびのご法要が、親鸞聖人によって明らかにされた阿弥陀如来の救いのはたらきに依りながら、時代の変化に対応する宗門の新たな第一歩として意義を持つものでありたいと思います。宗門では、親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年に向けて新たな長期計画が策定されています。皆様の積極的なご協力とご参画を心からお願いいたします。

平成27(2015)年1月16日

龍谷門主 釋 專 如

# 法語の世界

## 〈原文〉

前々住上人(蓮如)仰せられ候ふ。信決定の人をみて、あのごとくならではと思へばなるぞと仰せられ候ふ。あのごとくになりてこそと思ひすつること、あさましきことなり。仏法には身をすててのぞみもとむる心より、信をば得ることなりと云々。

(蓮如上人御一代記聞書 百九十四)

## 〈現代語訳〉

蓮如上人は、「信心がたしかに定まった人を見て、自分もあのようにならなくてはと思う人は、信心を得るのである。あのようにならなくては、なれるはずがないとあきらめるのは嘆かわしいことである。仏法においては、命をかけて求める心があつてこそ、信心を得ることができると仰せになりました。

## 〈語句の説明〉

思ひすつる ……(なれるはずがないと)あきらめる。

## 初盆について

今年初盆をお迎えになるお宅で、お座をお考えの方は早目に連絡ください。連絡いただいた順番に日時を決めています。お座をお考えでない場合はこちらからお参りの日時を連絡します。すでに次の日時は決まっています。参考にしてください。

13日  
 9:00・10:00・11:00  
 12:00・13:00・14:00  
 15:00・16:00

14日  
 9:00・10:00・11:00  
 12:00・13:00・14:00  
 15:00

